



### 結婚生活

「老いをどう生きる⑤」

かつて経験したことのない高齡化社会は、結婚生活を今までになく長いものにして

②ポルトガル 68%  
③ハンガリー 67%  
④チエコ 66%  
⑤スペイン 61%

結婚50年を祝う金婚式は昔は珍しいものだったが、今は当然のもののように見られ、かく言う自分も結婚53年になる。

⑥スウェーデン 61%  
⑦フランス 60%  
⑧イタリア 59%  
⑨オランダ 58%  
⑩ドイツ 57%

結婚しないという生き方もあるが、一般的には、多くの人が結婚する。そして結婚期間がかくも長くなると、幸せな結婚生活イコール幸せな人生ということになる。

しかし、結婚につきものなのが離婚。異なる2人が共に生活することは簡単そうだが、意外に難しい。ちなみに世界の国別離婚率を見

①ベルギー 69%

②ポルトガル 68%

③ハンガリー 67%

④チエコ 66%

⑤スペイン 61%

⑥スウェーデン 61%



M・Eのガイドブック

結婚式でも「かもめのジョナサン」を引用し、M・Eのスピーカーをよく披露した



今年のゴールデンウィーク、東京で全国M・Eの集会(2年に1度開催)に参加した。

M・Eに限らず、どんなに盛会だったものも、中心的役割の人が高齡化したりすると、勢いがなくなる。日本のM・E運動の中心であるダナン神父も86歳になられ、初期の中心的夫婦も、一方が病氣や亡くなられるなどして勢いを失っている印象を受ける。結婚の重要性は全く変わらないのに

なるための運動を始めた。この運動はスペインのカルボ神父と1組の夫婦が1962年に始めたもので、日本では群馬県でフランスのダナン神父が中心に取り組んでいる。私と一緒に群馬県に勉強に行こう」と言われた。

M・Eは1人の指導神父と3組のチーム・カップルと呼ばれる夫婦のもとで週末の44時間「内省と対話」を繰り返しながら、より良い結婚生活について学ぶもの。地区長と私たち夫婦の3人で群馬に出かけ、その後も長崎でのM・Eに参加した。

そして1981年(昭和56年)地区で1回目のM・Eを下松市の国民宿舎大城を借り切って開いた。以来10年近く実施したが、自分たちの結婚生活にも役立ったと思っている。

離婚しないまでも、線路の如く交わらないまま。M・Eで学んだ「より深い」は高齡化社会で軽んじられている気がする。

老いば若い時以上に2人が「顔と顔を合わせ」て信頼し、尊敬し合って生きる

とが、人生をより豊かにするのではないだろうか。笑顔であいさつするというような、日々の小さな積み重ねが結婚生活。老いを輝いて生きる道は、結婚生活の中にもあることは間違いない。